

「小串トマト式子育て」のすすめ

私が以前勤務していた学校は東彼杵郡にある小学校だったので、川棚町内の小串郷に住んでいました。その小串郷では、塩トマトの一種「小串トマト」が栽培されています。上質の小串トマトは、なんとみかんにも匹敵する糖度（12度～）にもなるそうです。（スーパーでも箱入りで販売されているので、保護者の皆さんも一度は見かけたことがあるかもしれませんね。）



この「小串トマト」は、特殊な栽培方法により、トマト本来の味と風味を追求した幻のトマトです。さて、このトマトがどう「子育て」とつながるのでしょうか…？

小串トマトは、水を極力与えずに育てます。すると、トマト自体が根や茎に生えている産毛から、水分を吸収する力を発揮するのだそうです。水をたっぷり与えて、甘やかして育てるのではなく、本来、トマトが持っている力を伸ばしているのですね。

しかし、その一方で、ビニールハウス内の室温の調整は、徹底して管理されています。天気によって変わる湿度や気温の変化に日々気を配り、その都度細やかに、愛情たっぷりに対応されていました。

川棚にいる間、総合的な学習の時間で、数回このトマトを育てる農家の人とお会いして感じたことは、「子育てに通じるものがあるな～！」ということです。（トマトとお子さんを同等に考えているのではないです、ご了解ください。）

「子供のために」と親が、大人がやってあげていることが、過剰になりすぎていないか、本当に「子供のために」なっているかを問い直すことが大切だと思うのです。かまいすぎ、手のかけすぎはお子さんの「本来できる力」「本来もっている力」を伸ばしません。

そしてまた、お子さんに最適の環境を整えてやることは必要です。朝食、早寝、早起きといった規則正しい生活をはじめ、お子さんの成長に必要なバランスの良い食生活も大切です。もちろん、環境の1つとして、お子さんが家庭でいつも聞く「大人の言葉遣い」も大事になってきますね。

さて、（まだ少し早いですが）これから長い夏休みが待っています。「小串トマト式子育て」を頭の片隅に残しながら、子供さんと過ごされてみてはいかがでしょうか？